

学会員（教員）研究動向 [2008.4～2009.3]

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
赤井 正二	論文(单著)	「旅行の近代化と「指導機関」—大正・昭和初期の雑誌『旅』から—」(『立命館産業社会論集』44巻1号) 99-115頁	2008.6
	論文(单著)	「「旅行団」と「山岳講演会」—大正期における旅行文化の形成—」(『立命館産業社会論集』44巻3号) 21-40頁	2008.12
秋葉 武	論文(单著)	「マネジメントの課題はリーダーシップにあり—NPOの「組織健全化」研究からの示唆」(『NPOジャーナル』21号、明石書店) 22-25頁	2008.5
	論文(单著)	「「社会的企業先進国」をめざす韓国の模索—韓国の経験から日本が学ぶこと—」(『NPOジャーナル』23号) 42-45頁	2008.5
	論文(单著)	「ボランティア(volunteer)の生成—末次一郎の戦争体験と陸軍中野学校—」(『日本ボランティア学会 2007年度学会誌』、日本ボランティア学会) 90-112頁	2008.6
	論文(单著)	「占領期日本の市民活動—「主体性」とGHQ—(上)」(『立命館産業社会論集』44巻1号) 137-152頁	2008.6
	論文(单著)	「占領期日本の市民活動—「主体性」とGHQ—(下)」(『立命館産業社会論集』44巻2号) 67-80頁	2008.11
	学会発表(単独)	「占領下日本の市民活動—「青年団」と「主体性」—」(日本ボランティア学会2008年度大会 一般演題報告(於:青森県立保健大学))	2008.6.29
	講師(ゲストスピーカー)	「「NPO組織と経営」平成20年度 これからの公共のあり方～アメリカのNPOに学ぶ～」(全国市町村国際文化研修所主催)	2008.10.15
有賀 郁敏	翻訳(单訳)	「カール・フェルカーと英国におけるドイツツルネンの始まり」(『立命館産業社会論集』44巻4号) 159-174頁	2009.3
石倉 康次	著書(共編著)	『現場がつくる新しい社会福祉』(かもがわ出版) 全200頁	2009.1
	論文(单著)	「戦後社会体制の変化と部落問題解決への過程」(『部落問題研究』第185号、部落問題研究所) 126-157頁	2008.6
	論文(单著)	「障害者の就労と自立支援—知的障害及び精神障害を持つ人の調査をもとに」(『障害者問題研究』Vol.36 No.2、全国障害者問題研究会) 34-41頁	2008.8
	論文(单著)	「住民自治・非営利・協同と社会福祉—供給主体を中心に」(『社会福祉学』Vol.49-3、日本社会福祉学会) 114-118頁	2008.11
	論文(单著)	「障害者の就労と多様な「自立」支援策の必要性—知的障害および精神障害を持つ人の本人調査をもとに—」(『立命館産業社会論集』44巻3号) 41-62頁	2008.12
	論文(单著)	「同和行政継続の根拠を問う」(『人権と部落問題』2009年3月号、部落問題研究所) 11-23頁	2009.3
	調査報告(単著)	「障害者(児)福祉事業に関わる事業者調査の結果」(『新しい公私関係の構築をめざす「準市場」化時代の非営利福祉事業体と公共部門の課題」(平成17年度～19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書) 研究代表者 鈴木勉) 128-187頁	2008.5
石田 智巳	論文(单著)	「学習指導要領への期待とその体制への不安」(『体育科教育』第56巻6号、大修館書店) 44-46頁	2008.6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
石田 智巳	論文(単著)	「身体能力形成の課題」(『現代スポーツ研究』第9号, 現代スポーツ研究会) 44-49頁	2008.9
	論文(共著)	「武道を学校で教えるということ」(『たのしい体育・スポーツ』No.223, 学校体育研究同志会) 14-15頁	2009.1
	学会発表 (共同)	「体育授業における子どもの認識発達に関する研究—小学校4年生と6年生の水泳授業から—」(日本スポーツ教育学会, 奈良教育大学) 20分	2008.10
	学会発表 (単独)	「佐々木賢太郎の体育教育思想形成に関する研究—『体育の子』時代の生活綴方・認識へのまなざしの変容」(日本教科教育学会, 宮崎観光ホテル)	2008.12
伊藤 隆司	著書(共著)	『戦後の生活記録に学ぶ』(『生活綴方と教育』, 日本図書センター) 145-168頁	2009.2
	論文(単著)	「熊野の子どもの生活と表現」(『世界遺産熊野地域の言語表現の豊かさの解明と教材開発』基盤研究C研究成果報告書) 37-61頁	2009.3
	調査報告 (単著)	「三重県熊野地域の文集資料調査結果報告」(『世界遺産熊野地域の言語表現の豊かさの解明と教材開発』基盤研究C研究成果報告書) 62-65頁	2009.3
伊東 寿泰	論文(単著)	論評「伊吹雄著: ヨハネ福音書注解II」(『新約学研究』36巻) 59-63頁	2008.7
	論文(単著)	「Pragmatic Analysis on Biblical Texts: A Case of Chapter 9 of John's Gospel」(日本語用論学会第10回記念世界大会論文集) 217-224頁	2008.11
	学会発表 (単独)	「文学的方法によるヨハネ福音書のアイロニーの分析」(日本新約学会第48回大会, 於: 東北学院大学)	2008.9
文 楚雄	学会発表 (単独・国外)	「中日同形語の比較研究」(中国語彙学学会第7回全国大会, 中国・河北大学)	2008.10
漆原 良	論文(共著)	“Comparison of monophasic versus biphasic stimulation in rTMS over premotor cortex: SEP and SPECT studies.” (Clin Neurophysiol. 119 (11), Elsevier Inc.) pp. 2538-2545	2008 Nov (Epub 2008 Oct 2)
	学会発表 (共同)	「頻度の異なる単相性低頻度反復経頭蓋反復磁気刺激が書痙患者の体性感覚誘発電位に及ぼす影響」(第38回日本臨床神経生理学会学術大会, 神戸国際会議場)	2008.11
	学会発表 (共同)	「不随意運動の神経生理学 ジストニアのrTMS治療 長期予後」(第38回日本臨床神経生理学会学術大会, 神戸国際会議場)	2008.11
遠藤 保子	論文(共著)	「からだとトボスーイビデの人々のアバメレスリングダンスを事例にして—」(『舞踊学』31巻, 舞踊学会) 98-101頁	2008.12
	論文(単著)	「舞踊の記録・保存・伝承に関する歴史的考察」(『スポーツ学の冒険』, 黎明書房) 68-77頁	2009.3
	講演(単独)	林原フォーラム基調講演「今日のアフリカにおける舞踊と社会」(山陽新聞さん太ホール, 岡山)	2008.11.16
	講演(単独)	林原フォーラム講演「今日のアフリカにおける舞踊と社会」(青山学院大学, 東京)	2008.11.20
	講演 (単独・国外)	ゲストスピーチ “Expedition to Wonderland : Dance, Music & Society in Africa” (Akin Deko Auditorium, Benin Univ. NIGERIA)	2009.2.24
	その他(共同)	文部科学省私立大学学術高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター整備事業」デジタル時代のメディアと映像に関する総合的研究 ファイナルプレゼンテーション「舞踊と開発教育」(立命館大学)	2009.3.1

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
遠藤 保子	その他(共同)	『ワンダーランド探検隊—アフリカの舞踊・音楽・社会—』(外務省主催第5回開発教育/国際理解教育コンクール「世界」を広げるはじめての一步 出品作品, 素材部門(映像)特別審査員賞受賞)	08年度
	学会発表 (単独)	ポスター発表「今日のアフリカの社会と舞踊の記録・保存・伝承—ナイジェリアの舞踊とモーシオンキャプチャー」(日本体育学会第59回大会, 早稲田大学)	2008.9.11
	学会発表 (単独)	「鶴見和子の舞踊観—鶴見和子文庫を開く—」(第60回舞踊学会大会, お茶の水女子大学)	2008.12.6
	学会発表 (共同)	「スポーツと開発教育—モーシオンキャプチャーを利用したアフリカの舞踊に関する教材開発」(日本スポーツ人類学会第10回大会, 早稲田大学)	2009.3.30
大谷いづみ	論文(単著)	「生きる権利・死ぬ権利—だけでなく」(上野千鶴子・大熊由紀子・大沢真理・神野直彦・副田義也編『ケアという思想—ケア その思想と実践1』, 岩波書店) 195-210頁	2008.4
	論文(単著)	「生権力と死をめぐる言説」(島菌進・竹内誠一編『死生学1—死生学とは何か』, 東京大学出版会) 53-73頁	2008.5
	論文(単著)	「『安楽な死・尊厳ある死』の位置取りをめぐる」(『Pharma Medica』26巻7号, メディカルレビュー社) 47-51頁	2008.7
	調査報告 (共同)	読売新聞社・立命館大共同調査「終末期医療全国病院アンケート」(『読売新聞』朝刊, 読売新聞社) 7月26日1・3面, 7月27日14・15面	2008.7.26
	調査報告 (単独)	大谷いづみ「患者や家族の苦悩 社会全体で共有を」コメント(『読売新聞』朝刊) 3面	2008.7.26
	その他(共著)	立岩真也・大谷いづみ・天田城介・小泉義之・堀田義太郎「座談会 生存の臨界Ⅰ」(『生存学』, 生活書院) 6-22頁	2009.2
	その他(共著)	大谷いづみ・天田城介・立岩真也・小泉義之・堀田義太郎「座談会 生存の臨界Ⅱ」(『生存学』, 生活書院) 112-130頁	2009.2
	その他(共著)	天田城介・大谷いづみ・立岩真也・小泉義之・堀田義太郎「座談会 生存の臨界Ⅲ」(『生存学』, 生活書院) 236-264頁	2009.2
	その他(共著)	大谷いづみ他「国際交流企画」Ⅱ「研究交流会」(安部彰・有馬斉編2009年3月『生存学研究センター報告8:ケアと感情労働—異なる学知の交流から考える』立命館大学 GCOE 創成拠点〈生存学〉, 生活書院) 100-126頁	2009.3
	学会発表 (単独)	「『問い』を立て直す—生と死の自己決定」をめぐる」(日本人権教育研究会第9回研究大会 シンポジウム「いのちと人権」シンポジスト, 兵庫教育大学神戸サテライト)	2008.8
岡田 まり	論文(単著)	「Chapter 2 個別レベル1～9」(社団法人日本社会福祉士会編『地域包括支援センターのソーシャルワーク実践 自己評価ワークブック』, 中央法規) 97-115頁	2009.1
	論文(単著)	「相談援助の技法」(社団法人日本社会福祉士会編『新社会福祉援助の共通基盤 第2版 下』, 中央法規) 260-271頁, 275-276頁	2009.3
	論文(単著)	「第13章 事例研究・事例分析」(白澤正和・高橋重宏・福富昌城・福山和女編『相談援助の理論と方法Ⅱ』, 中央法規) 251-274頁	2009.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡田 まり	学会発表 (共同)	岡田愛・三品桂子・岡田まり・佐藤純・杉原努 「精神障害のある人の地域生活支援における訪問家族支援の意義—英国パーミンガムとACT-Kの実践から」(日本精神障害者リハビリテーション学会 第16回東京大会, 一橋大学(国立キャンパス))抄録2000字	2008.11
	学会発表 (共同)	二星理佐・三品桂子・杉原努・岡田まり・久野恵理 「ピアサポート研修におけるWRAPの働きと可能性」(日本精神障害者リハビリテーション学会 第16回東京大会, 一橋大学(国立キャンパス))抄録2000字	2008.11
	学会発表 (共同)	金井浩一・高木俊介・牛野沙綾香・宮脇真理子・岡田愛・三品桂子・岡田まり「病院から地域生活への移行支援について～ACTにおける実践事例を通して～」(日本精神障害者リハビリテーション学会 第16回東京大会, 一橋大学(国立キャンパス))抄録2000字	2008.11
岡本 茂樹	論文(単著)	「解離的症状を訴える女子学生へのロールレタリングによる支援」(『臨床教育学論集』2巻) 1-11頁	2008. 8
	論文(単著)	「受刑者に対するロールレタリングを用いた面接過程」(『心理臨床学研究』26巻5号, 日本心理臨床学会) 568-579頁	2008.12
	論文(単著)	ロールレタリングを用いた摂食障害に悩む女子学生の面接過程(『交流分析研究』33巻2号, 日本交流分析学会)	2008.12
	学会発表 (単独)	交流分析の視点からみた矯正教育—ロールレタリングの事例から(日本交流分析学会第33回大会, 岩手県(岩手県医師会館))	2008. 5
	学会発表 (単独)	ロールレタリングをもちた摂食障害を主訴とする女子学生の面接過程(日本交流分析学会第33回大会, 岩手県(岩手県医師会館))	2008. 5
	学会発表 (単独)	ロールレタリングにおける認知行動療法的効果の研究(日本ロールレタリング学会第9回大会, 東京都(日本文化大学))	2008. 8
	学会発表 (共同)	ブラキシズムに悩む歯科医療従事者へのロールレタリングによる効果の研究(日本ロールレタリング学会第9回大会, 東京都(日本文化大学))	2008. 8
	学会発表 (単独)	受刑者に対するロールレタリングを用いた面接過程(日本犯罪心理学学会第46回大会, 東京都(国立オリンピック記念青少年総合センター))	2008.10
小川 栄二	論文(単著)	「身体介護と切り離せない自立支援に有効なサービス」(『月刊ケアマネジメント』Vol.19, No.5, 環境新聞社) 18-19頁	2008. 5
	論文(単著)	「ホームヘルプの過去と未来を見つめ, ホームヘルパーの働きがいを考える」(『月刊全労連』No.137, 全国労働組合総連合) 1-9頁	2008. 6
	論文(共著)	「利用者の援助拒否・社会的孤立・潜在化問題から福祉労働のあり方を考える」(『総合社会福祉研究』第34号, 総合社会福祉研究所) 22-34頁	2009. 3
奥村 信幸	論文(単著)	“The Backwardness of Japanese Political Journalism: Nonestablished Ethics and Unwritten Rules”, (Japan Chair Platform, CSIS (Center for Strategic and International Studies), Office of Japan Chair, Washington D.C., U.S.A.)	2008. 5. 7
	論文(単著)	『「オバマを勝たせた」のではなく「マケインを負けさせた』』(『放送レポート』217号, メディア総合研究所) 22-26頁	2008. 3. 4
	論文(単著)	“Pseudo Democracy of the Japanese Press: Kisha Clubs and Unwritten Rules” (『立命館産業社会論集』44巻4号) 35-48頁	2009. 3. 20
	学会発表 (講演・国外)	“Japan's Media Fiefdom: Kisha Clubs and Unwritten Rules in the Japanese Press” (Lecture at the School of Media and Public Affairs (SMPA), George Washington University, Washington D.C., U.S.A.) 60分	2009. 1. 29

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
奥村 信幸	学会発表 (講演・国外)	“Secret Rules of Japanese Kisha Club System” (Lecture at Mansfield Fellow Alumni Meeting, Mansfield Foundation, Washington D.C., U.S.A.) 60分	2009.3.20
小澤 亘	その他(単著)	“Comparative Study on Volunteerism of H.S. Students: Focusing on the Challenge of Tokyo Metropolitan Government” (International Symposium report: Volunteering, Education and Civil Society in Canada, Japan and Korea, Seoul National University) PPT sheet: pp.85-108 Abstract: pp.179-186	2009.3
	学会発表 (単独・国外)	“Comparative Study on Volunteerism of H.S. Students: Focusing on the Challenge of Tokyo Metropolitan Government” (International Symposium: Volunteering, Education and Civil Society in Canada, Japan and Korea, Seoul, Korea) 30分	2009.3.7
小原 豊	論文(共著)	“How to Enhance Students’ Mathematical Communication Ability” (Proceeding of Innovative Teaching Mathematics through Lesson Study, Vol.1, APEC-KHON KAEN International Conference) pp.81-87.	2008.8
	論文(単著)	「ケースメソッド法による教職志望学生の数学的リテラシー向上に関する教授実験」(日本科学教育学会第32回年回論文集, 321-323頁, 日本科学教育学会) 259-260頁	2008.8
	論文(共著)	「三角形の合同条件」の探究に関する教授実験(数学教育学会2008年度 秋季例会論文集, 数学教育学会) 125-126頁	2008.9
	論文(単著)	“Professional Development of Pre-Service Primary Mathematics Teachers via Case Method” (Proceeding of International Conference of Educational Research, Learning Community for Sustainable Development, Vol.1, Learning Community for Sustainable Development) pp.202-211.	2008.9
	論文(単著)	“Research on Case Method for Japanese Prospective Teachers: Focus on Numeracy” (NUE Journal of International Educational Cooperation, Vol.4, Naruto university of Education) pp.33-37	2009.3
	学会発表 (共同・国外)	“The Mountain-Climbing Learning Method to Activate Creative Thinking” (Poster session of Learning Community for Sustainable Development (at Khon Kaen Univ.) (国際学会))	2008.9
	学会発表 (単独)	「ケースメソッドによる文科系学生の数学観変容に関する試行」(第44回近畿数学教育学会秋季例会(於:神戸大学)(国内学会))	2008.10
	論文(単著)	「批判的理解を基盤とする法教育」(『授業研究21』, 明治図書出版) 625, 11頁	2008.11
論文(単著)	「社会科授業改善の一視点としてのコンピテンシー」(『社会科教育』, 明治図書出版) 597, 102頁	2009.1	
論文(単著)	「世界遺産を活用した小学校社会科授業の開発—第6学年単元『石見銀山は私たちに何を教えてくれるだろうか』—」(『世界遺産から身近な生活文化遺産までを活用した社会系教材開発研究』, 平成20年度文教協会研究助成金研究成果報告書) 45-78頁	2009.3	
研究ノート (単著)	「小学校社会科授業の改善(2)—4年単元『美山町を通して過疎化を考える』の開発—」(『立命館産業社会論集』44巻4号) 149-158頁	2009.3	

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
角田 将士	その他 (項目執筆)	『情報読解力を育てる NIE ハンドブック』(明治図書) 292-296頁	2008.12
	学会発表 (単独)	「認識形成の論理を視点とした社会科教科書史研究の方法論—パイロット版研究:「戦時期歴史教科書に見る思想統制の論理」を通して—」(全国社会科教育学会 社会科成立60周年記念研究プロジェクト「社会科教育史研究の体系化と新たな研究方法を探る」第1回中間発表会, 大分県 iichiko 総合文化センター)	2008. 6
	学会発表 (単独)	「社会科授業における新聞活用の論理—方法としての NIE —」(日本 NIE 学会第5回大会 (課題研究発表), 福岡教育大学)	2008.11
	学会発表 (共同)	「世界遺産から身近な生活文化遺産までを活用した社会系教材開発研究」(社会系教科教育学会社会系教科教育学会第20回研究発表大会 (自由研究発表), 兵庫教育大学)	2009. 2
金山 勉	その他(単著)	「米 NPR らつ腕会長退陣」(『新聞通信調査会報』555号, 新聞通信調査会) 13頁	2008. 4
	その他(単著)	「CBS, CNN と提携か」(『新聞通信調査会報』556号, 新聞通信調査会) 13頁	2008. 5
	その他(単著)	「米ベテラン編集者, 相次ぎ更迭」(『新聞通信調査会報』557号, 新聞通信調査会) 13頁	2008. 6
	その他(単著)	「CBS, ケーブルと再送信で課金交渉」(『新聞通信調査会報』558号, 新聞通信調査会) 13頁	2008. 7
	その他(単著)	「米, 高齢者に根強い新聞愛読傾向」(『新聞通信調査会報』559号, 新聞通信調査会) 13頁	2008. 8
	その他(単著)	「米, 北京五輪の開会式中継は最長」(『新聞通信調査会報』559号, 新聞通信調査会) 13頁	2008. 9
	その他(単著)	「全米に先駆けアナログ放送停止」(『新聞通信調査会報』561号, 新聞通信調査会) 11頁	2008.10
	その他(単著)	「高視聴率続く米大統領選 TV 討論」(『新聞通信調査会報』562号, 新聞通信調査会) 13頁	2008.11
	その他(単著)	「FCC 委員長に黒人女性誕生か」(『新聞通信調査会報』563号, 新聞通信調査会) 11頁	2008.12
	その他(単著)	「米, DTV 移行延期の動き」(『新聞通信調査会報』565号, 新聞通信調査会) 22頁	2009. 2
	その他(単著)	「米 DTV 移行, 再延長へ」(『新聞通信調査会報』566号, 新聞通信調査会) 13頁	2009. 3
	川口 晋一	翻訳(単訳)	「変動する東アジアと中国の分岐点」(『立命館大学人文科学研究所紀要』NO.92, 立命館大学人文科学研究所) 143-161頁
権 学俊	論文(単著)	「戦時下日本における国家主義的な身体管理と「国民」形成に関する一考察」(『日本語文学』43巻, 日本語文学会) 579-602頁	2008.11
小泉 秀昭	学会発表 (単独)	「広告メディア, プランニングと取引の現状と展望—アーキテクチャ論を踏まえた試論—」(日本広告学会第39回全国大会, 東京富士大学)	2008.11.16
斎藤 真緒	学会発表 (共同・国外)	“Life Skill Difficulties Faced by Family Caregivers New challenges faced by Japanese society as a result of the changing profile of family caregivers” (International Conference on Transforming Elderly Care at Local, National and Transnational Levels, Copenhagen) 20min	2009. 6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
坂田 謙司	著書(共著)	「放送の多様性から見る営利/非営利問題」(松浦さと子, 小山帥人編著『非営利放送とは何か』, ミネルヴァ書房) 49-67頁	2008.9.20
坂本 利子	論文(単著)	「ロンドンの多民族多文化コミュニティにおける地域再生—北ウェストミンスターのNPO法人, 「パディントン開発基金」とローカル・パートナーシップ—(上)」(『立命館産業社会論集』44巻1号) 117-135頁	2008.6
	論文(単著)	「ロンドンの多民族多文化コミュニティにおける地域再生—北ウェストミンスターのNPO法人, 「パディントン開発基金」とローカル・パートナーシップ—(下)」(『立命館産業社会論集』44巻2号) 47-65頁	2008.9
	学会発表(単独・国外)	“Representing a New Cultural Identity: A New Challenge in Nadine Gordimer’s Novel” (African Literature Association 35th Annual Conference)	2008.4
崎山 治男	著書(共編著)	『〈支援〉の社会学: 現場に向き合う思考』(青弓社) 全236頁	2008.11
	論文(単著)	「感情労働と組織」(『組織科学』41-4, 組織学会) 37-50頁	2008.6
	論文(単著)	「感情の管理」(井上俊・伊藤公雄編『自己・他者・関係』, 世界思想社) 199-210頁	2008.9
	論文(単著)	「感情の用法・感情による用法: 感情労働概念の再構築に向けて」(安部彰・有馬斉編『生存学研究センター報告8: ケアと感情労働—異なる学知の交流から考える』, 生活書院) 145-163頁	2009.3
	論文(単著)	「社会問題と福祉」(友枝敏雄他編『新社会福祉士養成・社会理論と社会システム』, 中央法規出版) 191-203頁	2009.3
櫻谷真理子	その他(単著)	図書紹介「浅井春夫他編『子どもの貧困—子ども時代のしあわせ平等のために—』明石書店」(『生活指導研究』NO.25, エイデル研究所) 149-151頁	2008
	学会発表	「イギリスの児童保護における情報の共有, 協働—子どもの意見の尊重, 親とのパートナーシップの形成を基に」(日本子ども虐待防止学会第14回大会プログラム抄録集) 117頁	2008.12.13 ・14
佐々木嬉代三	論文(単著)	「『公共』から『交響』へ—生存の可能性に向けて—」(『現代の社会病理』, 日本社会病理学会) 5-16頁	2008.9
	その他(単著)	「社会病理」(ブリタニカ国際大百科事典, ブリタニカ・ジャパン株式会社)	2008.11
笹野恵理子	論文(共著)	「実技系教科と遊びの日韓比較研究」(“Korea Journal of the Japan Education” 13-1, 日韓教育学会(韓国)) 1-18頁	2008.6
	その他(単著)	「音楽科の指導計画」(初等音楽科教員養成研究会編『中等音楽科教育法』, 音楽之友社) 22-24頁	2009.3
	その他(共著)	『実技を伴う教科と子どもの「遊び」に関する日韓比較研究』(平成18年度～19年度文部科学省科学研究費課題番号18530718—一般研究C研究成果報告書) 全47頁	2008.5
	その他(共著)	『中学校における理科と音楽を融合した新しいカリキュラム開発の研究』(平成19-20年度科学研究費補助金基盤研究C成果報告書) 全71頁	2009.3
	学会発表(単独)	「学校音楽教育研究においてヒドゥン・カリキュラムとは何か—当事者のカリキュラム経験を問う視角—」(日本カリキュラム学会第19回大会課題研究II「ヒドゥンカリキュラム研究の位相(2)—教育実践への応用を切り口に—」, 於鳴門教育大学) 1.5h	2009.7.4
	学会発表(単独)	「子どもは学校音楽をどう経験するか—学校音楽カリキュラムの再構築—」(日本教育方法学会第44回大会, 於愛知教育大学) 20分	2009.10.13

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
笹野恵理子	学会発表 (単独)	「音楽教育研究において潜在的カリキュラムとは何か(4)―当事者の学校音楽カリキュラム経験を問う―」(日本音楽教育学会第39回大会, 於国立音楽大学) 20分	2009.11. 9
鎮目 正人	著書(共著)	『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験, 必修事項と範例問題2009』(みらい) 9-56頁	2008. 7
	著書(共著)	『シティズンシップとベーシック・インカムの可能性』(法律文化社) 134-159頁	2008.11
	著書(共著)	『社会福祉士養成教育方法論』(弘文堂) 152- 頁	2008.12
	著書(共著)	『グローバル化のなかの福祉社会』(ミネルヴァ書房) 51-77頁	2009. 2
	学会共表 (単独)	「漸進的制度変化の分析枠組みと公的年金改革―戦後の公的年金改革の経緯を辿って―」(日本社会福祉学会第56回全国大会, 倉敷市芸文館)	2008.10
篠田 武司	著書(共著)	篠田武司・西口清勝・松下冽編『グローバル化とリージョナリズム―「グローバル化の現代―現状と課題」第2巻』(お茶の水書房) 全430頁	2009. 3
	書評(単著)	「J・ヒルシュ『国家・グローバル化・帝国主義』を読む」(『経済学雑誌』第109巻第2号(大阪市立大学経済学会, 日本評論社) 80-87頁	2008. 9
	その他	「第三者評価」(『東芝テック CSR 報告書 2008』, 東芝テック)	2008. 6
	国際シンポジウム報告 (単独・国外)	“The Crisis of Social Cohesion in Japan under Globalization”, International symposium on “Globalization and Social Changes” at Chung-Ang University, Seoul (Korea)	2008.10
	国際シンポジウム報告 (単独・国外)	“Concluding Remark”, International Symposium on Globalization and East Asian Regionalism: Cooperation and Conflict” at Institute of Southeast Asian Studies, Jinan University, Guangzhou (China)	2009. 3.29
杉本通百則	研究ノート (単著)	「1930年代後半のアメリカ・ドイツにおけるアスベスト粉塵対策に関する一考察」(『立命館産業社会論集』44巻2号) 103-124頁	2008. 9
高木 正朗	論文(単著)	「京都への納骨習慣と無縁墓―真宗本願寺派・大谷本廟―」(『京阪神都市圏の重層的なりたち』, 昭和堂) 275-296頁	2008.12.25
	論文(単著)	「仙台藩村落の人口変動と『村の共同性』―土地売買から見た―」(『(年報) 村落社会研究第44集』, 農産漁村文化協会) 113-147頁	2009. 1.31
	訳書(共訳)	ロバート・ガーランド著『古代ギリシア人と死』(見洋書房) 221+33頁	2008.10.20
高嶋 正晴	訳書(共訳)	スーザン・ストレンジ著『マッド・マネー―カジノ資本主義の現段階―』(櫻井公人ほか訳, 岩波現代文庫)	2009. 1
	論文(単著)	「グローバル市民社会と世界秩序―ネオ・グラムシアン・アプローチからの一検討―」(『グローバル化の現代―現状と課題―(第2巻―グローバル化とリージョナリズム―)』, 第6章, 御茶の水書房) 149-175頁	2009. 3
	書評(単著)	「書評: 松田博著『グラムシ思想の探究―ヘゲモニー・陣地戦・サバルタン』」(『季報 唯物論研究』) 104, 206-211頁	2008. 5
	論文(単著)	「山口県の国際インバウンド観光振興の取り組みと展望―東アジア地域交流連携と着地型観光交流地域づくりの取り組み―」(『下関市立大学地域共創センター年報』) 1, 191-217頁	2009. 3
	研究発表 (単独)	「環黄海経済圏構想の現状・課題・展望―自治体主体のミクロ地域主義の意義と可能性―」(『グローバル経済危機と東アジア地域協力の展望』研究会, 北京社会科学院)	2009. 3

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
竹内 謙影	訳書(共訳)	Rosemary Sage & Alice Sluckin 著『場面緘黙へのアプローチ—家庭と学校での取り組み』(田研出版)全192頁	2009.3
	論文(共著)	「舞鶴市における子育ての実態とニーズに関する調査研究—保護者のニーズと子育て支援の関連について—」(『立命館産業社会論集』44巻3号)101-120頁	2008.12
	論文(単著)	「学童期における認知発達の特徴～9,10歳の発達の節目に焦点を当てて～」(『立命館人間科学研究』18号,立命館大学人間科学研究所)77-86頁	2009.3
	学会発表 (単独)	「幼児における航空写真の空間表現としての理解—発話プロトコルに基づく分析—」(日本教育心理学会第50回総会,東京学芸大学)	2008.10
	学会発表 (共同)	「3歳前後の時期におけるにおけるふり遊びと役割意識および自他の認識の関連」(日本発達心理学会第20回大会,日本女子大学)	2009.3
竹濱 朝美	論文(単著)	「科学的視点からみた温暖化問題:世界排出量2020年までの減少開始」(『人間と教育』58号)28-35頁	2008.6
	論文(単著)	「温室効果ガス排出削減をめぐる近未来のスケッチ」(『月刊保団連』975号)4-7頁	2008.6
	論文(単著)	「ドイツ再生可能エネルギー法にみる太陽光発電促進策:普及効果と経済効果を検証する」(『環境技術』37巻10月号)46-53頁	2008.10
	学会発表 (単独)	「太陽光発電の普及政策が太陽光電池産業に与える経済効果:日本とドイツの比較」(日本消費経済学会第33回全国大会,大阪商業大学)	2008.6
	学会発表 (単独)	「太陽光発電普及政策にみる経済効果と環境効果,日本とドイツの比較」(日本環境学会第34回研究発表会,富山県立大学)	2008.8
	学会発表 (単独)	「日本における太陽光発電普及の課題と流通業界への普及の可能性」(日本流通学会第22回全国大会,立命館大学びわこ草津キャンパス)	2008.10
	学会発表 (単独)	「ドイツ太陽電池産業にみる再生可能エネルギー政策の効果と非政策的要素」(政策情報学会第4回研究大会,慶應義塾大学三田キャンパス)	2008.11
津田 正夫	著書(編著)	『メディア・ルネサンス 市民社会とメディア再生』(メディア・ルネサンス 市民社会とメディア再生,風媒社)全289頁	2008.9
	調査報告 (単著)	「台湾・公共テレビ台」(報告書『台湾の市民とメディア』,市民とメディア調査団)15-16頁	2008.8
	学会発表 (講演)	「戦争報道とメディアのゆくえ—プロパガンダと競争を越えて—」(京都自由大学)	2008.6.13
	研究発表 (講演)	「パブリック・アクセスについて」(ケーブルテレビジョン in KANSAI,アジア太平洋トレードセンター(大阪))	2008.11.28
	研究発表 (講演)	「地域コンテンツの活用とパブリック・アクセス」(第3回四国コンテンツ連携推進会議,eーとびあ・かがわ(高松))	2009.3.19
	研究発表 (講演)	「パブリック・アクセスとコミュニティ・チャンネル」(参画と協働の情報発信研修会,兵庫県新温泉町町民センター)	2009.3.30
	審査委員 (審査委員長)	「碧海・西尾幡豆映像祭Vフェス2008」(碧海・西尾幡豆映像祭実行委員会,刈谷市産業振興センター)	2009.2.22
	審査委員 (審査委員長)	「第5回さかの聴覚障害者映像祭」(特定非営利活動法人・CS障害者放送統一機構,コミュニティ嵯峨野)	2009.2.8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
筒井 淳也	訳書(共訳)	ナン・リン著『ソーシャル・キャピタル：社会的構造と行為の理論』（ミネルヴァ書房）i-xvi, 161-209, 266-316頁	2008.7
	論文(共著)	「マルチレベル・モデルの考え方と実践」（『理論と方法』23巻2号）139-149頁	2008.12
	論文(単著)	「リスクと不確実性：社会学的リスク論の位置づけ」（『ヒューマンセイフティ研究』1号, 立命館大学産業社会学会）1-12頁	2008.12
	論文(共著)	“Mate Selection in Korea and Japan: Facts and Future Research Agenda”（『立命館産業社会論集』44巻4号）49-66頁	2009.3
	学会発表 (共同)	“Mate Selection Trends in Japan, Korea and Taiwan: An Analysis using EASS2006”（2008 JGSS International Symposium, 大阪商業大学）	2008.6
	学会発表 (共同)	“Mate Selection in Korea and Japan: Facts and Future Research Agenda”（International Symposium: Unfolding the Nuances of East Asian Families: Sociological Approaches to the Contemporary Dialogue, ソウル国立大学）	2008.8
	学会発表 (共同)	“Shifting Trends and Variety of Mate Selection in East Asian Countries: Findings from EASS 2006”（18th Annual Meeting, Japanese Society of Family Sociology, 大正大学）	2008.9
	学会発表 (単独)	「社会学理論の到達点と制度派経済学」（進化経済学会サマースクール, 岡山大学）	2008.9
	学会発表 (単独)	“Attitudes toward Globalization: Cross-national Analysis of Trends and Factors”（Globalization and Social Changes: International Symposium for the 10th Anniversary of the Department of Sociology, チュンアン大学）	2008.11
	学会発表 (単独)	“From Arranged Marriage to Love Marriage?: An Alternate View of Mate Selection in East Asian Countries”（81st Annual Meeting, Japanese Sociological Association, 東北大学）	2008.11
津止 正敏	著書(共著)	『障害児の放課後支援の今とこれから』（津止正敏・津村恵子・丸山啓史, 立命館大学人間科学研究所）全248頁	2009
	著書(共著)	『ボランティアの臨床社会学—あいまいさに潜む「未来」—』（津止正敏・斎藤真緒・桜井政成, 立命館大学ボランティアセンター）全290頁	
	論文(単著)	「連載」家族介護者支援を考える—家族の会の「提言」と男性介護研究から—①～⑥」（『ぼーればーれ（認知症の人と家族の会機関紙）No.338-No.344, No338, No344）	2008-2009
	論文(単著)	「世界中の“父母”や“祖母”に愛情に包まれて—ベト・ドク分離手術成功20周年記念式典に参加して—」（『みんなのねがい』No.501, 全国障害者問題研究会出版部）58-59頁	2008
	論文(単著)	「いま障害児の放課後は—障害のある子どもの放課後保障運動の到達点—」（村岡真治著『ゆうやけで輝く子どもたち—障害児の放課後保障と実践のよろこび—』）104-113頁	2008
	論文(単著)	「障害のある子どもの放課後保障研究—藤本文朗先生の研究をたずねて—」（紀要『創発』第8号, 大阪健康福祉短期大学）21-23頁	2009
仲井 邦佳	学会発表 (共同)	“La enseñanza de la lengua española en Japón: el material docente en español — En torno a los diccionarios —”（Presente y Futuro de la Lengua Española en Japón, 京都外国語大学）	2008.11.13
中井 美樹	論文(単著)	「就業機会, 職場権限へのアクセスとジェンダー」（『社会学評論』59巻4号）699-715頁	2009.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中川 勝雄	研究ノート (単著)	「沖縄集落における住民・世帯構成の動向」(『立命館産業社会論集』44巻1号) 173-186頁	2008.6
中西 仁	論文(単著)	「公民的分野の指導改善の工夫と展開例」(『中学校新学習指導要領の展開社会科編』明治図書) 160-171頁	2008.12
	論文(単著)	「公民的分野の改善の要点・内容の取扱い上の留意点「私たちと現代社会」(『中学校教育課程講座 社会』ぎょうせい) 134-138頁	2009.1
	論文(単著)	「公民的分野の改善の要点・内容の取扱い上の留意点「国民生活と政府の役割」(『中学校教育課程講座 社会』ぎょうせい) 149-153頁	2009.1
	論文(単著)	「地域の生活文化遺産を活用した社会系教材開発研究—地域に残る年中行事に注目して—」(『世界遺産から身近な生活文化遺産までを活用した社会系教材開発』平成20年文教協会研究助成金研究成果報告書(研究代表者 金子邦秀)) 79-104頁	
	その他 (作成協力)	「中学校学習指導要領解説社会編」(文部科学省)	2008.9
	学会発表 (共同)	「世界遺産から身近な生活文化遺産までを活用した社会系教材開発」(社会系教科教育学会第20回大会, 兵庫教育大学)	2009.2
学会発表 (単独)	「子ども京都学—日本で一番書かれない? 郵便番号」(第18回授業のネタ研究会 IN 関西, 東大阪市民会館)	2009.3	
永橋 為介	論文(単著)	「『対話の力』が『場所の力』を呼び覚ます—「場所の力」を引き出すデザインはいかにして可能か?」(『こころのたねとして 記憶と社会をつなぐアートプロジェクト』) 206-230頁	2008.4
	論文(単著)	「なぜ今『まちづくり』なのか」(平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業選定 [実践力ある地域人材の輩出] プロジェクトパワーアップ講座) 16-18頁	2009.3
	調査報告書 (共著)	「学術的情報と市民参画による湖沼環境計画策定の海外先進事例調査報告書」(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 全26頁	2008.12
	調査報告書 (共著)	「環境首都『たじみ』をめざす12の先導的プロジェクト」(多治見市, 環境首都コンテスト全国ネットワーク)	2009.3
記録集(共著)	「琵琶湖の将来をどう描くか?—水環境, 生態系, それを取り巻く社会の視点から」記録集(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 全55頁	2009.3	
仲間 裕子	論文(単著)	“Aesthetics of Japan as Self-References in Contemporary Art” (<i>Year Book: International Association for Aesthetics</i> , 2008, vol.12., <i>International Association for Aesthetics</i>) pp.53-63	2008
	論文(単著)	「美術研究と大学のアート・リソース—立命館大学アート・リサーチセンターの試みと研究活動」(『日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業:「日本の文化政策とミュージアムの未来」, 「ミュージアムの活用と未来, 鑑賞行動の脱領域的研究」(平成20年度報告書)], 日本学術振興会 人文・社会科学振興プロジェクト研究事業:「日本の文化政策とミュージアムの未来」, 「ミュージアムの活用と未来, 鑑賞行動の脱領域的研究」グループ) 26-31頁	2009.3.31
	その他(単著)	「サロメ—世紀末に現れた女神」(『平成20年度文化庁芸術祭参加作品, 沼尻竜典オペラセレクション, リヒャルト・シュトラウス作曲: 歌劇「サロメ」, 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール) 18-22頁	2008.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
仲間 裕子	学会発表 (単独)	「美術研究と大学のアート・リソースー立命館大学アート・リサーチセンターの試みと研究活動」(筑波大学芸術学シンポジウム「大学アート・リソースの活用と未来」, 筑波大学)	2008.11.1
	学会発表 (単独, 国外)	“Aesthetics of Silence — Considering East Asian Contemporary Art Exhibitions in Japan” (The Asian Society of Art, the 6 th International Conference, National Central Library, Taiwan)	2008.12.18
中村 正	著書(共著)	『日本の男性の心理学—もう1つのジェンダー問題』(有斐閣) 275-280頁	2008.6
	論文(単著)	「ハラスメント被害者の都合のよい考え方と対話し, 責任を召喚させる被害者臨床」(『現代のエスプリ491号』) 109-118頁	2008.6
	論文(単著)	「愛情と暴力—親密な関係性という相互作用から立ち上がる親族間殺人」(『現代の社会病理』23号) 59-68頁	2008.9
	論文(単著)	「男性のためのグループワークーDV加害男性, 虐待親, 性犯罪者たちとのセッションの経験からー」(『集団精神療法』第25巻1号) 32-40頁	2009.1
	学会発表 学会発表	「加害者の社会再統合」(第9回日本司法福祉学会, 九州大学) 「男性問題と心理—加害者臨床の視点—」(第27回日本心理臨床学会, つくば国際会議場)	2008.8.4 2008.9.4
中山 一樹	論文(論文)	「教育の新自由主義的展開の諸相」(『唯物論』第82号, 東京唯物論研究会) 31-42頁	2008.12
	その他 (単著)	「貧困・格差社会の記憶のために」(『季刊ひろば』第157号, 京都教育センター) 4-8頁	2009.2
浪田 陽子	論文(共著)	“The Politics of Race, the Media, and the American Presidency: Revelations from Barack Obama’s 2008 Election Success” (『立命館産業社会論集』44巻3号) 63-75頁	2008.12
	学会発表 (単独・国外)	“Globalizing Canadian Media Literacy Concepts: The Role of Corporations in Diffusing Media Literacy Beyond Canada’s Borders” (2008 Annual Conference of the Canadian Communication Association, Vancouver, British Columbia, Canada)	2008.6
	その他(講演)	「メディア・リテラシーとは」(平成20年度 文部科学省指定「コミュニティスクール推進事業」調査研究校 研究発表会, 京都市立桂坂小学校)	2009.1
野田 正人	著書(共著)	日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』(ミネルヴァ書房) 60-70頁	2008.10
	論文(単著)	「自殺の実態と防止のための取り組み」(『別冊教職研修』4月号) 31-33頁	2008.4
	論文(単著)	「SCrとSSWrとの違いと協働の可能性」(『月刊生徒指導』6月号) 10-13頁	2008.6
	論文(単著)	「スクールカウンセリングをめぐる最新事情」(『学校マネジメント』11月号) 60-61頁	2008.11
	論文(単著)	「スクールソーシャルワーカーとは何か」(『文部科学省スクールソーシャルワーカー実践事例集』, 文部科学省) 4-7頁	2008.12
原尻 英樹	著書(単著)	『文化人類学の方法と歴史』(新幹社) 全273頁	2008.4
	著書(単著)	『心身一如の身体づくり: 武道, そして和する“合気”, その原理・歴史・教育』(勉誠出版) 全219頁	2008.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
東 自由里	論文(単著)	「ロワーイーストサイド・マンハッタンの歴史空間と地域再生」(『躍動するコミュニティ』, 晃洋書房) 1-44頁	2008.10
	その他(単著)	「現代のことば: モンゴロイド」(『京都新聞』, 夕刊) 2頁	2008.5.1
	その他(単著)	「現代のことば: ミスター・ポローニ」(『同上』, 夕刊) 2頁	2008.7.8
	その他(単著)	「現代のことば: スロットマシーン」(『同上』, 夕刊) 2頁	2008.8.26
	その他(単著)	「現代のことば: フライパンと脳みその話」(『同上』, 夕刊) 2頁	2009.10.21
	その他(単著)	「現代のことば: 図書館への愛」(『同上』, 夕刊) 2頁	2009.1.9
	その他(単著)	「現代のことば: エイリアン」(『同上』, 夕刊) 2頁	2009.3.9
樋口 耕一	調査報告 (共著)	「児童養護施設内暴力に関する調査研究」(『兵庫県こころのケアセンター研究報告書』平成20年度版, 兵庫県こころのケアセンター) 113-143頁	2009.3
	学会発表 (単独)	「イノベーション普及過程の探索—2001年から2004にかけてのインターネットを事例に」(第47回数理社会学会大会, 京都産業大学)	2009.3
日暮 雅夫	著書(単著)	『討議と承認の社会理論: ハーバースとホネット』(勁草書房) 全256頁	2008.6
日高 勝之	論文(単著)	“A Tug of War between the European Union and the Member States: The Dynamism of European Media, Politics and Economy” (『言語文化研究』第2号, 神戸親和女子大学) 127-143頁	2008.4
	論文(単著)	「イギリス高級紙論壇のインターテクスチャリティ～The GuardianとThe Daily Telegraph論壇の比較分析～」(『言語文化研究』第2号, 神戸親和女子大学) 103-126頁	2008.4
深澤 敦	論文(単著)	「フランスにおける家族手当制度の形成と展開—第一次世界大戦後のパリ地域補償金庫を中心として—(下)」(『立命館産業社会論集』44巻2号) 13-46頁	2008.9
福間 良明	著書(単著)	『戦争体験』の戦後史—世代・教養・イデオロギー—(中公新書)(中央公論新社) 全286頁	2009.3
	論文(単著)	「国防科学の博覧と『聖戦』の綻び—戦時博覧会のメディア論」(『メディア史研究』24号) 41-60頁	2008.8
宝月 誠	論文(単著)	「食の安全性と食品企業の逸脱—1977年から2006年までの日本の動向—」(『ヒューマンセーフティ研究』1号, 立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会) 39-74頁	2008.12
	論文(単著)	「逸脱ビジネスの社会的世界—シカゴ学派のモノグラフ研究—」(『立命館産業社会論集』44巻4号) 1-19頁	2009.3
Ian T. Hosack	研究発表	“Peer editing revisited: The benefits of anonymity.” JALT2008 International Conference. Tokyo.	2008.11
	研究発表	“Teaching for Democracy: A Deliberative Poll project for the English language classroom.” 14 th International NELTA Conference. Kathmandu, Nepal.	2009.2
前田 信彦	著書(単著)	“Transition to Retirement and Active Ageing: Changes in Post-Retirement Lifestyles in Japan” (University Education Press (大学教育出版)) 全160頁	2008.6
	論文(単著)	「職業生涯とワーク・ライフ・バランス—オランダにおけるライフコース貯蓄制度」(『世界の労働』58巻6号, 日本ILO協会) 26-32頁	2008.6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
前田 信彦	論文(単著)	「高齢期における地域生活の治安とヒューマン・セーフティ」(『ヒューマン・セーフティ研究』1号, 立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会) 13-27頁	2008.12
	論文(単著)	「大学から職業キャリアへの移行と学習過程・学生生活—学部4回生における『潜在的無業層』の分析」(『立命館高等教育研究』) 141-158頁	2009. 3
	論文(単著)	「職業生活と定年後の社会参加」『シニアの社会参加と生きがいに関する調査研究』(シニアプラン総合研究機構報告書)	2009. 3
松田 亮三	著書(編著)	『健康と医療の公平に挑む』(東京:勁草書房) 全266頁	2009. 2
	論文(単著)	「医療制度改革と自治体」(『ローカルガバナンスと現代行財政』, 京都:ミネルヴァ書房) 52-64頁	2008. 5
	論文(単著)	「国の医療政策の現状と課題—供給政策を中心に—」(『(社)大阪自治体問題研究所 研究年報』11, (社)大阪自治体問題研究所) 7-21頁	2008. 9
	論文(単著)	「介護報酬と介護保険料はどのようにして決まるのか?」(『介護福祉のための経済学』, 東京:弘文堂) 94-108頁	2008.10
	調査報告(単著)	“Reform of Local Public Hospitals” (Health Policy Monitor, International Network Health Policy & Reform)	2008. 4
	調査報告(単著)	“Action Plan for Promoting Generic Substitution” (Health Policy Monitor, International Network Health Policy & Reform)	2008. 4
	調査報告(単著)	“Arguments for Instituting General Physicians” (Health Policy Monitor, International Network Health Policy & Reform)	2008. 4
	調査報告(単著)	“Joint Clinical Pathways for Collaboration” (Health Policy Monitor, International Network Health Policy & Reform)	2008.10
	調査報告(単著)	“Restructuring of Hospital Long-Term Beds” (Health Policy Monitor, International Network Health Policy & Reform)	2008.10
	調査報告(共著)	“Promoting End-of-life Care outside Hospitals” (Health Policy Monitor, International Network Health Policy & Reform)	2008.10
	調査報告(共著)	“New Health Insurance for the Elderly” (Health Policy Monitor, International Network Health Policy & Reform)	2008.10
	報告書(共編著)	「健康・公平・人権:健康格差対策の根拠を探る」(『生存学研究センター報告7』, 立命館大学生存学研究センター) 全130頁	2009. 2
	松葉 正文	論文(単著)	「格差と貧困の諸問題:社会的連帯政策を求めて(上)」(『立命館産業社会論集』44巻3号) 1-19頁
論文(単著)		「格差と貧困の諸問題:社会的連帯政策を求めて(下)」(『立命館産業社会論集』44巻4号) 21-33頁	2009. 3
覚書(単著)		「日本近代史断想:岩波新書<日本近現代史>1~6を読む」(『立命館産業社会論集』44巻1号) 197-218頁	2008. 6
書評(単著)		「A. ゴードン『日本の200年:徳川時代から現代まで』上・下, 森谷文昭訳, みすず書房, 2006年(英文原著2003年刊行)」(『立命館産業社会論集』44巻2号) 141-147頁	2008. 9
峰島 厚	著書(共編著)	『ひろげてつないでつくりだす—和歌山発, 障害者実践・運動からの発信』(峰島・小畑耕作・山本耕平編, 分担執筆「刊行にあたって—編者を代表して」, 全障研出版部) 全142頁	2008. 8
	著書(共著)	『発達障害基本用語事典』(日本発達障害学会監修, 分担用語「成年後見制度」「一般雇用」「重度障害者多数雇用事業所」「トライアル雇用」「特例子会社」「保護雇用」, 金子書房)	2008. 8

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
峰島 厚	論文(単著)	「福祉から排除される障害者—障害者自立支援法の虚構」(財団法人東京市政調査会編『都市問題』99巻6号, 財団法人東京市政調査会) 81-84頁	2008.6
	論文(単著)	「障害者自立支援法と就労支援施策」(障害者問題研究編集委員会編『障害者問題研究』36巻2号(134号), 全障研出版部) 2-7頁	2008.8
	調査報告 (共著)	「グループホーム・ケアホームでの支援にかかわる実態調査報告書」(障害者支援システム研究会「グループホーム・ケアホームの支援実態に関する検討グループ」) 1-89頁	2008.9
	調査報告 (共著)	「基幹障害児・者支援センター構想調査研究事業」(京都府舞鶴市)	2009.3
	調査報告 (共著)	「厚生労働省平成20年度障害保健福祉推進事業」(障害者自立支援調査研究プロジェクト) 報告書「入所施設からの転換モデル事業」(「入所施設からの転換モデル事業検討委員会」(総括研究者桜井康宏・事務局社会福祉法人ハスの実の家))	2009.3
その他(単著)	「障害者福祉をめぐる動向と課題」(東京腎臓病協議会編「東腎協第134号」, 東京腎臓病協議会) 10-11頁	2008.8	
森田 真樹	論文(単著)	「アメリカ社会科におけるグローバル意識及びグローバルな見方の育成—社会科カリキュラムにおけるグローバル教育の位置という視点を含んで—」(『アメリカ社会科のシティズンシップ教育に関する理論的・実践的研究』(平成18年度～平成20年度 科学研究費補助金(基盤研究(B)) 研究成果報告書:研究代表者 唐木清志)) 57-67頁	2009.3
	学会発表 (単独)	「アメリカ社会科におけるシティズンシップ教育の現状と課題—グローバル教育の視点を中心に—」(ミニシンポジウム「アメリカ社会科におけるシティズンシップ教育の現状と課題」)	2009.1
門田幸太郎	学会発表 (共同)	“How do players decide rational strategies in actual games?”, The 29th International Congress of Psychology (Berlin)	2008.7.23
柳澤 伸司	著書(単著)	『新聞教育の原点—幕末・明治から占領期日本のジャーナリズムと教育』(世界思想社) 全432頁	2009.3
	論文(単著)	「青少年ネット環境整備法と教育の役割」(『学校運営』, 学校運営研究会) 6-11頁	2008.9
山下 秋二	論文(共著)	「体育授業に対する生徒の価値態度の構成要因およびその構成因子の性差の検討」(『日本教科教育学会誌』31巻2号, 日本教科教育学会) 29-38頁	2008.9
山下 芳樹	著書(共著)	『授業に役立つ理科教育法(小学校編)』(東京書籍) 185-190頁	2009.4
	著書(共著)	『授業に役立つ理科教育法(中・高等学校編)』(東京書籍) 65-71, 233-240頁	2009.4
	著書(共著)	『知っておきたい最新科学の基本用語』(技報社(東京)) 334-412頁	2009.4
	著書(共著)	『物理の疑問(身近に感じる不思議編)』(技報社(東京))	2009.5
	論文(単著)	「遊びから入るからこそ実感がわく実験—遊具シーソーからはじめる自由度のある実験—」(『化学と教育』VoL.57 (NO.4), 日本化学会) 180-181頁	2009.3
	論文(単著)	「理科のできる高校生の実録—日本学生科学賞にみる, 科学好きの50年の足跡—」(『理科大科学フォーラム』通巻297号, 東京理科大学) 30-37頁	2009.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
山下 芳樹	教育実践報告	「シーソーモデル型でこ実験器—子どもの変化の子が見える実験器具—」(『楽しい理科授業』2009年1月号(NO.509), 明治図書) 54頁	2009.1
	書評(単著)	「10の美しい科学実験」(理科教育雑誌『Rika-Tan』4月号, 星の環会)	2008.4
	学会発表等	「教材研究の目のつけどころ—今こそ問われる理科教員の持続可能な教科力—」(平成20年西日本私立小学校教員研修会, 聖母学院小学校) 90分	2008.5
	学会発表等	「シーソー型でこ実験による地球環境教育」(地球環境問題を考えるための科学実験教室, 京都教育大学) 120分	2008.6
	学会発表等	「遊具シーソーから学ぶエネルギー環境問題」(経済産業省中部経済産業局主催「エネルギー環境教室」, 石川県志賀町立下甘田小学校) 120分	2008.11
学会発表等	「やさしい理科は優しいですか, それとも易しいですか」(立命館大学産業社会学部子ども社会専攻企画, 立命館大学) 50分	2008.11	
山本 耕平	著書(単著)	「ひきこもりつつ育つ—若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーカー—」(かもがわ出版) 全190頁	2009.2
	著書(共編著)	「ひろげて つないで つくりだす—障害者実践・運動からの発信—」(全障研出版部)	
	論文(単著)	「若者とひきこもり—ひきこもりを捉える視座と支援の方向性—」(『季刊ひろば』No.154, 京都教育センター+「ひろば・京都の教育」刊行委員会) 25-30頁	2008.5
	論文(単著)	「大阪泉南市の計画策定に参加して」(「ノーマライゼーション」, 日本障害者リハビリテーション協会) 34-35頁	2008.7
	論文(単著)	「ひきこもり, ニートの人たちの共同作業所づくり「あんたがいないと作業所がまわっていかないわ」—暴力と差別を許さず, 自己への尊厳を大切に—」(ひろげて つないで つくりだす—障害者実践・運動からの発信—, 全障研出版部) 43-59頁	2008.8
	論文(単著)	「就学前保育療育の実践と運動「子どもが毎日通える場所がほしい」—地域で働くさまざまな職種の人たちが社会資源をつくりあげる—」(ひろげて つないで つくりだす—障害者実践・運動からの発信—, 全障研出版部) 108-119頁	2008.8
	論文(単著)	「移送制度による危機介入」(『精神保健福祉援助技術各論』, 中央法規) 31-36頁	2009.2
	調査報告(単著)	「Vアプローチ VIアセスメント VII介入プラン」(薬害HIV感染被害者遺族等のメンタルケアに関するマニュアル, 財団法人友愛福祉事業団(厚生労働省補助事業)) 59-86頁	2008.9
	調査報告(単著)	「IX介入評価(モニタリング)」(薬害HIV感染被害者遺族等のメンタルケアに関するマニュアル, 財団法人友愛福祉事業団(厚生労働省補助事業)) 99-104頁	2008.9
	調査報告(共著)	「精神障害者の退院促進型グループホーム・ケアホームへの固有な配慮を」(グループホーム・ケアホームでの支援にかかわる実態調査報告書, NPO法人大阪障害者センター・障害者生活支援システム研究会)	2008.9
学会発表(共同)	「ひきこもる若者のグルーピングに基づく心理・行動・社会的特徴の考察—ピアスタッフとの共同作業によるアセスメント研究—」(日本精神障害者リハビリテーション学会, 一橋大学) 15分	2008.11	
リム ボン	著書(共著)	『躍動するコミュニティ』(晃洋書房) 1-3, 159-203頁	2008.10